

人と未来をつなぐ100年の木プロジェクトの取り組みについて

北海道開発局帯広開発建設部道路計画課 武田祐輔

1. 取り組みの概要

「人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト」は、北海道の上川地方から十勝地方をつなぐ周遊観光活性化を目的に、シーニックバイウエイ北海道の4ルートと北海道ガーデン街道協議会、地域が一体となって上川・十勝地方間の幹線道路沿道に観光の道しるべとな

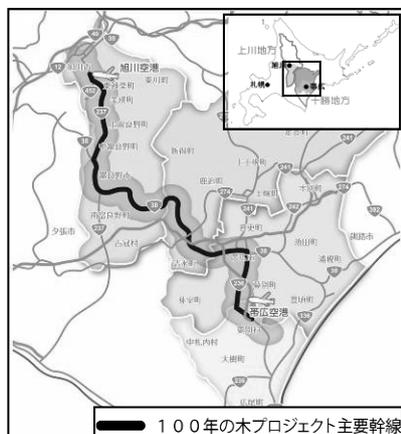


図-1 参加団体の活動地域

る「サインツリー」を植樹する取り組みです(図-1参照)。

道路交通環境の向上を図るとともに、訪れる人々に地域の「要所」、「優れた景観(シーニック)」、「並木」、「花壇」、「庭園(ガーデン)」などを案内しておもてなしを行うことを目的とし、後世に残る新しい景観を創出することで他圏域との交流人口の拡大も期待しています。

「100年の木プロジェクト」で、おもてなしや観光の道しるべとなる「サインツリー」として植樹する樹木は「ヤマナラシ・エレクト」と呼ばれる在来由縁品種で、ポプラに似た細身の樹木です。成長すると10mを超える高木で、一目でそれと分かる特徴的な樹形はとても印象的です。また、風害に強く、枝張りが細く密集しているために冬期の落氷雪が生じにくく、剪定が不要等、維持管理も容易なため、道路植栽に適する樹木です。



写真-1 植栽樹木

なお、「100年の木プロジェクト」は、道路法に基づく「NPO法人等が設置する並木等に関する道路占用の特例制度」の一般国道における全国初の許可事例です。

「シーニックバイウエイ&ガーデン街道 美しい北海道景観を育てる会(以降、「育てる会」とする)」(会長:三井福成氏)を中心に植樹や維持管理の活動が行われ、行政や地域からの支援もあり、官民一体となった体制で進めています。

「100年の木プロジェクト」の植樹は、上川・十勝地方間の国道38号沿線の4箇所、平成24年5月に各団体や地域の

子供達などが参加してスタートしました(写真-2参照)。これまでに30箇所106本の植樹を行い、平成26年度中には当初から予算を確保していた第一期分200本を植樹できる予定です。



写真-2 植樹の様子

2. 連携の拡大～民間企業との連携～

「100年の木プロジェクト」は、シーニックバイウエイ北海道の4ルートと北海道ガーデン街道協議会との連携事業としてスタートしましたが、民間企業のCSR(Corporate Social Responsibility: 企業による社会責任)の取り組みとしても、注目され始めています。北海道コカ・コーラボトリング株式会社は、シーニックバイウエイ北海道とも包括連携協定を締結しているなど、景観や環境面でのCSR活動にも積極的に取り組まれており、「100年の木プロジェクト」に対しても平成24年度より広報や各種イベント時のPRにおいて、多大な支援を頂くとともに、平成25年6月には十勝地方と上川地方をつなぐ国道38号狩勝峠5合目において植樹会を共催しています。この他にも、地域企業である株式会社ニトリホールディングス北海道応援基金、有限会社高橋商事からも、植樹費用などの協力や支援を頂いています。

「100年の木プロジェクト」を継続していくために、そして企業も含めた地域が一体となった取り組みとするために、「育てる会」では、今後も民間企業との連携を模索していく予定です。

3. 今後の展望

「100年後の道路景観を創出し、子供達の未来に大きな贈り物をしたい」という思い、願いからスタートした「100年の木プロジェクト」は、その名の通り、100年先まで続く壮大な取り組みです。

写真-3 100年後の景観は?
(国道38号狩勝峠5合目)

「育てる会」では、当初に計画していた200本の植樹は平成26年度に完了しますが、平成27年度以降も追加植樹の検討や、取り組みのPR、参画者の募集などを継続していく予定です。